

小学校低学年の部
最優秀賞

ひいおじいちゃんの人生

長浜市立高月小学校

きたがわ みなと
2年 北川 湊

ぼくのひいおじいちゃんは、96才で今年の冬に亡くなりました。ぼくにとってのひいおじいちゃんは、おかしをくれたりじょうだんを言って笑わせてきたり、登校をする時には心配して見にきてくれるやさしいひいおじいちゃんでした。ひいおじいちゃんのごはんをもっていったりおてつだいをすると、おこづかいをくれたりぼくたちがくるととてもうれしそうな顔をしてくれてとてもうれしかったです。時々ねているふりをしてぼくたちが近づくととびおきてびっくりさせてくるおちゃめなひいおじいちゃんでした。

ひいおじいちゃんのおそうしきで、わかったころの話をたくさん聞きました。ひいおじいちゃんは、すごくしっかりした長男で勉強をとてものがんばって、はじめてその村で学校の先生になれそうな一歩手前でひいおじいちゃんのお父さんが仕事でけがをしてしまってはたらけなくなりました。なので家ぞくのためにゆめをあきらめてはたらかなければなりませんでした。その後もけっこんして四人の子どもをそだてるために田んぼや夜きんをしたり、ひっしではた

らいていたと聞きました。自分がゆめをあきらめてしまったので、子どもにはすきなことをして生きてほしい。と言っていたそうです。また亡くなる直前に「みんなでなかよくしろよ。」と言っていました。

ぼくは、その話を聞いてはじめは、かわいそうだと思いました。自分のゆめをあきらめて人生を家ぞくのためにぎせいにして。でもおそうしきの時に「96才まで元気に生きれてまごが九人、ひまごが十人もいてにぎやかでしあわせな人生やな」とたくさんの人が言っていました。その時ぼくは、ふしぎな気もちになりました。ゆめは、あきらめたかもしれないけど、子どものためにはたらいて、子どもとあそんだり家ぞくがどんどんふえていくことがうれしくてしあわせだと思っていたと思います。ぼくが生まれた時もびょういんまできてくれてとてもうれしそうな顔でだっこしてくれていたそうです。ぼくもその話をきいてうれしかったです。

ひいおじいちゃんが亡くなってからおきょうを読んでひいおじいちゃんのことを思いだしています。ひいおじいちゃんの家に行っても、もういないしさみしいけれど一人になってしまったひいおばあちゃんがさみしくならないようにあいに行ける時はあいに行っていっぱい話をしたいと思います。ぼくもひいおじいちゃんみたいに、人にかこまれた人生をあゆんで行きたいと思います。

小学校中学年の部
最優秀賞

ぼくにできること
近江八幡市立八幡小学校

4年 まつい そう
松井 奏

妹をうみ、育てるために仕事を休んでいたお母さんが、4月からまた仕事を始めました。その日からぼくたちの生活は大きく変わりました。

今まで毎日、「いってらっしゃい」と「おかえり」を言ってくれていたのはお母さん。でも今は、ぼくが言うようになりました。テレビを見たりゲームをしたり、本を読んだりピアノの練習をしたりする時間がへりました。ねる時間もおそくなりました。お母さんと話す時間も少なくなっていました。家に帰ってきたらすぐに、ごはんとおふろと、あとはねるだけ。お父さんとお母さんは、その間にごはんの用意をして、ぼくと弟の宿題チェックにせんとく物のかたづけ。ぼくたちがねてから、そうじとせんとくと、仕事をしているようです。さびしい気持ちもあるけれど、お父さんとお母さんが仕事をがんばってくれているのは、ぼくたちのためだって分かっています。ぼくたちは元気に学校に通っているし、習い事にも行けるし、外食や旅行に行けてうれしいです。

毎日いそがしそうなお父さんとお母さんを見て、ぼくに何かできないかな、と考えました。ごはんを作る、せんとくをする、そうじをする……と考えてみたけれど、それを全部、最初から最後までするのは今のぼく

にはむずかしい。でも、ごはんをよそうとか、お茶わんやお皿を運んだり、お茶をいれたりすることは、ぼくにもかんたんにできます。自分のせんとくものをたたんでかたづけたり、部屋のそうじをしたり、引き出しの整理整頓をしたりもできます。妹がちらかしたおもちゃのかたづけもできます。朝、なかなか起きない弟を起こしたり、弟たちと3人でおふろに入ったり、妹と遊んだりもしています。大好きなお父さんとお母さんのために、お兄ちゃんとして、家族の一員として、何か役に立ちたいと思っています。

学校での勉強や、習い事もがんばりたいです。お父さんとお母さんがおうえんしてくれているから、それにこたえたいです。

他にもぼくに何かできるかなと思って、お父さんとお母さんに聞いてみたら、「元気で学校に行ってね」「むりしすぎないで、自分の目ひょうに向かってこつこつ努力してね」と言われました。それから、「お父さんとお母さんがつかれていたら、きょうだいみんなでぎゅっとしにきてね」とも。

お父さん、お母さん。健康に気をつけて仕事がんばってね。ぼくはぼくにできることをするよ。つかれていたら、弟と妹に集合をかけて、ぎゅっとしにいくよ。もしぼくがつかれた時は、二人でぼくをぎゅっとしてね。

小学校高学年の部
最優秀賞

おじいちゃんとの約束

大津市立晴嵐小学校

5年 やまざき よしあき
山崎 祥章

ぼくはおじいちゃんに「(サッカーの) 試合で1点決める。」と約束しました。おじいちゃんは一生涯けん命に声を出して、「がんばれ。」と言ってくれました。その時の「がんばれ。」と「ありがとう。」が最後の会話でした。

5月18日の試合で、ぼくは久しぶりに試合に出られました。ぼくは相手チームの動きをよく見て、「今や！」とシュートしました。それからもう1点決めました。ぼくは約束が守れてほっとしました。夕方に病院に行ったおばあちゃんがおじいちゃんに報告してくれました。小学生はお見まいに行けないから、お母さんがお見まいに行った時、ビデオ電話でぼくも言おうと思ってました。でも、その日の夜におじいちゃんは亡くなりました。

ぼくの父方のおじいちゃんは、ぼくが1年生の時に階段から落ちて頭を打って、体が悪くなっていきました。なん病がわかって、どんどん歩けなくなって、いっしょに散歩できなくなりました。なんとか外を見せてあげたくて外でイスにすわらせてあげました。鳥の鳴き声や虫の声を聞いたり、近所の人にあいさつしたり、風がふいたら、「あー、いい気持ちやな。」と喜んでくれました。

トイレにゆっくり行っていた時はお手伝いをしたかったけど、おじいちゃんは体が大きくて、ぼくがこけそうになりました。部屋にトイレがなくても、おむつになった時も、ぼくはおじいちゃんを助けてあげられなくて悲しかったです。おじいちゃんはぼくに勉強を教えたり、畑で野菜を採らせてくれたのに、ぼくは何もしてあげられませんでした。

おじいちゃんが何でも食べられた時は大好きな

チキンを買って行きました。おじいちゃんが好きな食べ物やおいしい物があると、いつもお母さんが買ってました。おじいちゃんが元気だった時は何でも「うまいうまい。いけるいける。」って、おいしそうに食べてくれました。そのおじいちゃんの声がお母さんはわすれられなくて、お母さんはおじいちゃんが何も食べられなくなってしまいうまで、食べ物を買ってました。

おじいちゃんがまだしゃべれた時はいっぱいしゃべったし、ぼくと妹のサッカーをおうえんしてくれました。いつも「よっちゃん是可以るぞ! がんばれ。」と言ってくれました。あまりしゃべれなくなっからは「しりとり」をして、おじいちゃんが言葉をわすれないでほしいと思いました。しゃべれなくなっからは、ぼく達がしゃべるのをニコニコして聞いて、よくわらってくれました。

おじいちゃんの思い出はたくさんあって、おじいちゃんはプロ野球が大好きでした。ベッドにねるしかできなくなっからも、好きなチームをおうえんしてました。だから家にあった小さいテレビを、おじいちゃんが見やすい所に置きました。そして、みんなでおうえんしました。勝った時は喜びのタッチをしました。楽しい時間でした。

それからおじいちゃんは、ひいおじいちゃんとひいおばあちゃんの月命日には必ず読経をしてました。でもねたきりになって、できなくなっしまいました。ぼくはおじいちゃんがこのことが一番気になっていると知ってました。だからユーチューブを見て勉強して、ひいおじいちゃんとひいおばあちゃんの命日だけだけど、ぼくが代わりに読経をするようになりました。おじいちゃんはおくに手を合わせてくれました。

おじいちゃんとの「1点決める。」の約束は守れたから、お別れの時、おじいちゃんに言いました。

「これからもぼくは何でもがんばる。みんなを大事にする。じいじの月命日とひいじいじとひいばあばの命日はぼくが読経するから大じょうぶやで。じいじをずっとわすれません。じいじ大好き。ありがとう。」

小学校低学年の部
優秀賞

とくべつなきんようび

彦根市立稲枝東小学校

1年 ^ふ ^じ ^た ^{ゆう} ^じ
富士田 勇仁

ぼくのおうちは、きんようびにおかしぱーていーをします。おかしぱーていーでは、いっしゅうかんのたのしかったことやおともだちのかっこいいところやかなしかったこと、おこられたことなどをかぞくにはなします。

はじめてのさんすうのてすとで、わからなくてせんせいにきいてもてすとだからおはなししないよということをいわれてかなしくてないてしまいました。それでもてすとはさいごまでじぶんでかんがえてがんばることができました。このことをおかしぱーていーではなすと、おにいちゃんからは、わかることからしたらいいよとあどばいすをしてもらいました。ままとぱぱからは、さいごまでがんばれたことをほめてもらいました。いつも、みんな

におはなしをきいてもらってうれしくなります。そしてきょうだいのおはなしをきいて、そんなことがあったのかとはっけんすることもあったたのしいです。ききたいことがあるときは、てをあげてしつもんをしたりしずかにきくことをたいせつにしています。

さいごには、みんなでじゅーすをもって、「かんぱーい」としておかしをたべます。ぼくは、このとくべつなきんようびがたのしみでまちどおしいです。これからも、かぞくでおはなしをするじかんをたいせつにしたいです。

小学校低学年の部
優秀賞

ぼくのひいおじいちゃん

長浜市立小谷小学校

2年 ^{かとう}加藤 ^{そうま}壮真

ぼくのひいおじいちゃんが、6月11日になりました。ぼくのころの中には、ひいおじいちゃんとの思い出がいっぱいあります。

5年前、ぼくはかな川けんからしがけんにひっこして来ました。じぶんの家ができるまで、よくひいおじいちゃんもいっしょに、みんなでごはんを食べました。ひいおじいちゃんはおさをのむとたのしくなって、ぼくをわらわせようとして話しかけたりへんなかおをしたりしました。ひいおばあちゃんには、

「はよ食べて。」

とおこられていたけれど、ひいおじいちゃんと食べるごはんはとてものにぎやかでたのしかったです。

小学校の入学しきの時には、学校から出たら、ひいおじいちゃんが、校もんからのぞいていて、

「おめでとう。」

と言ってくれてたのをおぼえています。それから学校に行く時まい日見おくってくれました。

ところが、2年生になって、ひいおじいちゃんは見おくりに出てこなくなりました。ひいおばあちゃんが、

「おじいちゃんはさいきん体のちょうしがわるいん。」

と教えてくれました。ぼくはまた元気になって見おくってくれるだろう、と思っていました。だけど、ある日とつぜん入いんして、そのままなくなってしまいました。ぼくは、とてもかなしかったです。ことばではあらわせないほどかなしかったです。なくなったひいおじいちゃんのかおを見るたびに大なきしてしまいました。もう二どと会えないと思うと、

「なかなかいいよ。」

とみんなが言っても、なみだがとまりませんでした。

いまでも、たのしい時、いやな気もちの時、がんばった時、ひいおじいちゃんと話したくなります。だけど、ひいおじいちゃんとはもう会えないし、話すこともできません。かわりにいつもひいおじいちゃんのしゃしんに話しています。すがたは見えないけれど、ひいおじいちゃんはいままでどおり見まもってくれているような気がします。

ぼくはまい日かぞくと話します。会って話すことは当たり前のことです。だけど、ひいおじいちゃんがなくなって、それはあたり前のことではないと気づきました。だから、これからもひいおじいちゃんのことを忘れずに、そして、会って話せるかぞくと時間を大せつにしていきたいです。

小学校低学年の部
優秀賞

ぼくのたからもの
長浜市立塩津小学校

わたなべ あおと
2年 渡辺 葵斗

ぼくは、7人家ぞくです。大すきな家ぞくをしょうかいします。

まずおじいちゃんは、はたけしごとをがんばっています。あせをながして、いろんなやさいやくだものをつくってくれています。だいくしごととくいで、こわれたものがあつたらすぐになおしてくれる、たよりになるおじいちゃんです。つぎに、おばあちゃんは、りょうりがとても上手です。お店で食べるよりもおいしくて、ぼくは、つい食べすぎてしまいます。あかるくて元気いっぱいのおばあちゃんです。そして、おとうさんは、いろんなところにつれて行ってくれます。魚つり、海水よく、たのしいことをたくさんさせてくれます。ぼくがならいはじめたやきゅうにも、しごとでつかれてるのに、ついてきてくれます。おとうさんもやきゅうをしたことがなかったのに、いっしょにグローブを買って、れんしゅう中です。2人ともすこしずつ上達してきました。おかあさんは、そこにいてくれるだけでぼくを元気にしてくれる、たいようみたいなそんざいです。ぼくが大人になったときにこまらないように、いろんなことを教えてくれます。だしまきたまごは、ぼく一人でつくれるように

なりました。みんな、

「おいしい。天才や。」

と食べてくれて、あつというまにうり切れです。4さいの妹は、しっかりものです。よくけんかもするけれどいっしょにあそぶのがたのしいです。さいごは0さいのおとうとです。赤ちゃんが、おかあさんのおなかに来てくれたと聞いたとき、ゆめかと思うほどうれしかったです。生まれるまで、男の子か女の子かはないしよでした。ぼくは、男の子がよかったから、すごくうれしかったです。生まれたばかりのころは、小さくて、ねたりないたりするだけでした。でも今は、はいはいをするし、つたいあるきもします。ぼくはおとうとをわらわせるのがとくいです。ケラケラと声を出してわらってわらってくれると、さい高にかわいいです。おとうとが家ぞくにくわわって、よりにぎやかでたのしくなりました。ぼくたち3人きょうだいの名前は、しりとりになっていて、つながっています。名前みたいに、3人でずっとなかよく、たのしくくらししていきたいです。

夏休みに、しがけんへいわきねんかんに行きました。せんそうで、家ぞくがばらばらにくらしたり、家ぞくがしんでしまったりしたそうです。ぼくは、かなしくてこわくなりました。ぼくは、大すきな家ぞくとずっといっしょにいたいです。はなれてくらすいとこ家ぞくや、もう一人のおじいちゃん、おばあちゃんもびょう気やじこに気をつけて、長生きしてほしいです。ぼくには、家ぞくがいっぱいて、しあわせです。

小学校中学年の部
優秀賞

だいすきな守山とぼく

守山市立守山小学校

3年 たねの えいすけ
種野 瑛友

ぼくは、夏休みに家ごと夏まつりに行きました。じつは、去年も行こうとしたけれど着いたとたんにお客さんの人数が多すぎて夏まつりが中止になってしまったので、何も楽しめなくてくやしい気持ちで帰りました。

でも、今年は、お兄ちゃんの中学校に夏まつりのスタッフの人が来て、

「今年は、夏まつりがせいこうするようにしっかりじゅんぴをするので、みんな来てください。」

と言ってくれたと聞きました。ぼくも、夏まつりの前の日に、まつりのかざりやステージのじゅんぴをあせだくになってしてくれている人たちを見ました。そのおかげで、今年はみんなでさんかできたので、とってもとってもうれしかったです。

とくに思い出にのこっているのは、屋台で食べた守山のメロンです。とてもあまくて、おかわりしたいくらいおいしかったです。そして、まつりのさい後のちゅうせん会は、当たるかな、当たるかな、とワクワクドキドキしてあせが出るほどでした。けっきょく、ぼくは、何も当たらなかったけど、とても楽しい夏まつりでした。

また、ぼくはお母さんとかつべ町内会の水フェスタにも行きました。それは、かつべの中水川という川にみんなで入って、水中

の生き物をあみでつかまえて、調さする活動です。生き物の名前やつかまえかたなどは、びわ湖はく物館の先生が教えてくれました。

ぼくのお父さんも朝早くから、町内会のスタッフとして水フェスタのじゅんぴをしていていました。そして、フェスタのさい中は川の横を車が通るときは、あぶなくないように気をつけたり、川でケガをしないように見守ってくれたりしました。そのおかげでぼくたちは事こやケガもなしで安心して楽しくさんかできました。

この水フェスタで、ぼくはザリガニをたくさんつかまえることができました。ザリガニはみんなで四百ぴきい上とれたそうです。また、今まで知らなかった魚の名前を教えてもらって、そんな魚が守山の川にいたんだ！とおどろきました。そこで、学校の友だちに会えたこともうれしかったです。

そして、来週にはお父さんと守山の木工教室にもさんかする予定なので、とても楽しみです。夏休みはいろんなイベントにさんかできるけれど、それはイベントの計画をしたり、じゅんぴや後かたづけを一生けんめいがんばってくれる人たちがいるからだということがわかりました。だから、ぼくはその人たちに「ありがとうございます。」と言いたいです。

これからは、ぼくもかつべ町内会や守山のために何かできることをしたいなと思います。たとえばゴミ拾いやあいさつなどです。そうしたら、みんながえ顔で気持ちよくすごせるようになると思います。そして守山のまちが好きな人がもっとふえるようになるとうれしいです。

小学校中学年の部
優秀賞

おじいちゃんのやさしさ

竜王町立竜王西小学校

4年 くにおか 國岡 やまと 大翔

ぼくのおじいちゃんは、すごいなと思うところがたくさんあります。

おじいちゃんは何かものがこわれたりすると、すぐに直してくれて、とてもたよになります。他にも、しょうぎやコマがとく意で、いつもぼくに教えてくれます。ぼくがなかなかできなくても、見本を見せてくれたり、できるようになるまで何度も教えてくれたりします。

その中でも、ぼくが一番すごいなと思ったことがあります。いっしょにごはんを食べていた時に、おじいちゃんが

「これおいしいからやまとも食べるか。」

とおさし身をくれました。

「おいしい。」

と言ってぼくが食べてるのを見て、おじいちゃんはにこにこうれしそうにしました。

「おじいちゃんはいいから、たくさん食べなさい。」

と言って、たくさんおさし身をくれました。食べ終わった時に、さっきのおさし身が最後の一切れだったことに気づきました。おじいちゃんはおさし身が好物なのに、自分はほとんど食べずに、ぼくにたくさん食べさせてくれました。

おじいちゃんはいつもおいしいものがあると自分の分がなくなってしまうとぼくに食べさせてくれます。そして、ぼくがおいしそうに食べてるのを見て、とてもうれしそうにしています。ぼくだったら、おじいちゃんみたいに自分のことよりも、だれかのためにゆずってあげたりできないかもしれません。おじいちゃんが、人にゆずってあげられるのは相手によろこんでほしいからや、人がよろこんでいるところを見ると自分もうれしくなるからだと思いました。だれかがよろこんでいることを自分のことのようによこべるのは、その人のことを思いやる気持ちがないとできないと思います。

ぼくは、いつも人を思いやれるおじいちゃんをそんけいしています。そして、そんなおじいちゃんが好きです。ぼくもおじいちゃんのように、だれにでも思いやりを持って行動できるやさしい人になりたいです。

小学校中学年の部
優秀賞

「私のい場所」

長浜市立速水小学校

4年 やました 山下 みつ 晃生

私にはたくさんのい場所があります。学校や学童、それから大すきなよごのおばあちゃんのお家です。学校や学童には友達がいっぱいいるし、先生たちもいろいろなことを考えて私たちを楽しませてくれます。今年の夏は学童でおとまり会もあってとても楽しみです。

おばあちゃんのお家は、台所のにおいがとてもやさしいです。そのやさしいにおいはおばあちゃんと同じにおいで、私をいつもほっと安心させてくれます。

ある日、私が家で歌いながら大すきなダンスをノリノリでおどっていると、お母さんがニコニコしながら、

「みつきは自由やなあ。」

としみじみ言いました。だから私は、

「べつにいいやん。家で自由にできへんかったらどこでやるんよ。」

と答えました。するとお母さんは大わらいしながら、

「ほらほうか、ありがとな。」と言いました。

私がいつも自由でいられるお家は、私の一番のい場所なんだなと思いました。他にもい場所はあるけれど、お家以上に安心できる場所はないし、私にとってやっぱりとくべつなんだなと思いました。

二番目のお兄ちゃんは、ゲームをいっし

よにやりながら教えてくれてやさしいし、一番目のお兄ちゃんは、小さなお父さんみたいで安心するし、お父さんは、私といっしょにふざけたり遊んだりしてくれるし、お母さんはいつでも、私の味方でいてくれます。だから私は、いつもお家で自由でいられます。自由でいられるのは、こんな楽しい家族に包まれているからだと気づきました。家族のみんなも、そう思ってくれているとうれしいです。

これからもお家は、私や家族のみんながいつでも自由にいられる場所であってほしいです。

お家にだれかが帰ってきた時には、いつもうれしくて、

「おかえり。」

とむかえに行きます。私もお家に帰ってきてげんかんをあけると毎回、

「ただいま。」

と言います。家族みんながそろうのは毎日夜おそいけど、みんながそろうとやっぱり安心するなと思います。

自由でいられて、安心できる私のお家は、やっぱり私にとって一番のい場所です。これからも私のい場所はここにありつづけてほしいです。

小学校高学年の部
優秀賞

「おばあちゃんの梅干し」

長浜市立高月小学校

いしかわ なな
6年 石川 七菜

私の祖母の梅干し作りは、毎年6月ごろから始まります。昔は、大きな梅の木があり、代々その梅で梅干しを作っていました。今年は祖母が何キロもの梅を用意しました。

「今年もたくさんの梅干しを作るわな。」

といつも、この時期に祖母は、意気込んでいます。私はそんな祖母を見るとワクワクしてきます。なぜなら、私は、祖母の作る梅干しが大好きだからです。

まず、用意した梅を水できれいに洗い、表面の水分を拭き取ります。私がそこで楽しみにしている事は、梅のへたとりです。へたは、つまようじで梅を傷つけないように優しく取ります。大きなガラスの瓶に塩と梅を交互に入れます。そして梅に重しを乗せます。次に、水分が出たら赤紫蘇を入れ、色が付いたら天日干しをします。祖母と大きなザルを外に運んで梅干しをていねいに並べます。梅が赤く染まっていたとてもきれいでした。私は、梅干しを作るのがこんなに手間と時間がかかる事を知りました。梅干しは、大切に扱わないと、すぐにカビが生えてしまうので私は、手を清潔に気をつけました。

週末は遠くに住んでいる、いとこたちとも一緒に梅干し作りに参加しました。祖母も久しぶりに孫たちに囲まれて、とても嬉しそうでした。みんなは、梅干しの事について祖母にたくさん質問していました。私は先に祖母にいろいろ教えてもらっていたので、いとこたちに知っていることを話してあげました。いつの間にか梅干しの話だけではなく、学校の話や部活などの話

題でみんなで盛り上がりました。また、楽しい話だけでなく、悩んだり、辛い悲しい気持ちになった話も家族に聞いてもらうだけで気持ちが楽になりました。

祖母の話によると昔は、家族たちや親戚たちで協力してそれぞれの家でお茶のさいばいもしていたそうです。それを聞いて、昔の方が今よりずっと家族同士の会話がなかったのかなと思いました。少しずつ時代が変わって生活の様式も変わっていき、家族がみんなでゆっくり過ごす時間も減ってきていることに気づきました。

祖母が台所から、休けいにと、去年の梅シロップで梅ジュースを作ってきてくれました。梅干しに続きみんなが大好きなジュースです。梅のいい匂いが広がります。梅干しの作業で梅を一粒ずつ、きれいに並べて、落とさないように、しんちょうになり疲れていたのも、のどがかわいていました。みんな梅ジュースを沢山おかわりしました。1年つけ込んだ梅は、とても甘くて、美味しかったです。

ジュースを飲みながら、私は、考えていました。毎年こうやって、梅干し作りができたらいいなと思いました。来年もまたみんなでいろんな話題を持ち寄って、祖母にそれぞれの成長を聞いてもらいたいなと思いました。そして、祖母に教えてもらった梅干し作りを自分でもいつか作ってみたいです。

夏休みには、今年の梅干し作りも、終番に近づいてきました。もう一回、梅干しを天日干しをする予定です。きっと、太陽の光をたくさん浴びて、色が今よりも、もっとこいピンク色になるのかなと、思っています。今からとても楽しみにしています。

今朝も、祖母の梅干しを食べました。すこし、すっぱいところもありましたが、口の中に梅干しのかおりが広がりました。朝から体が元気になりました。今年の梅干しを味見するのがとても楽しみです。

小学校高学年の部
優秀賞

「お母さんの言葉」

彦根市立旭森小学校

おおつつみ ちよ
6年 大堤 千世

私は5年生の3学期くらいから友だち関係で悩んでいました。私と友だち二人はいつも三人で学校の中でもクラスがちがっても休み時間になれば一しょに遊ぶなどとても仲よしでした。でもいつからか私は友だち二人だけで仲よく、私だけ一人になっている気がしてとても不安で悲しい気持ちになることが多くなってきました。友だち二人を見るだけでつらい気持ちになってなみだが出てきて、泣いていました。「もう学校へ行きたくない、二人を見たくない、会いたくない」と思いました。

家ではずっと泣いていて、朝も起きれなくなりました。私のお母さんは「車でおくって行ってあげるから、学校へ行きなさい。」と言って車で毎日送ってくれました。教室や職員室まで連れていってくれたりするときもありました。それでも友だち二人が見えるから教室に入れなくて、ちがう教室でプリントをしたり、先生に話を聞いてもらったりしました。

家に帰るとまた泣いて、お母さんに自分の気持ちを聞いてもらったり、たくさんお母さんと話をしました。お母さんは「仲よしのお友だちを作るのは大事なことだけど、その子だけ仲よくするのではなく、いろんな人と話したりして、いろんな子と仲よくなったほうがいいよ」と言ってくれ

ました。私は泣きながらも「そうだな。いろんな子と仲よくなったほうが楽しいし、その子だけってなると、その子がいなくて一人になるほうがいやだな」と思いました。でも次の日、学校に行くと、お母さんの言葉を思い出しても頭で分かっていてもつらくて泣いてしまって、教室の中にも行けませんでした。相談の先生がいる教室に行ったりもしました。その先生は、「いつでも困ったときやつらいなと思ったときはいつでもきていいよ」と言ってくれました。そして、「先生も友だちとえんを切ったことあるよ。でもそれで気が楽になったよ。」と教えてくれました。お母さんやいろんな先生の話の聞いたり、話をすることで私の考え方もだんだんかわっていききました。少しずつ教室にも入れるようになってきて、いろんな子とたくさんしゃべるようになりました。それでもまた悲しくなって泣いて帰って、お母さんに「また泣いてるの。」とおこられたときもありました。お母さんも泣いていました。「何があっても、ちよの味方だから」「自分の考え方がかわらないとずっとこのままだよ。」とやさしく言われました。私のお母さんは仕事があっても毎日学校まで送ってくれたし、たくさん私の話を聞いてくれて、アドバイスもたくさんしてくれました。まだ泣くときもあるけど少しずつ私の考え方がかわって行って、楽しく笑顔で学校へ行ける日が増えました。「何があっても、ちよの味方だから」という言葉が一番うれしくて心に残っています。たくさん泣いてケンカもしたけれど、お母さんと私のきずなが深くなったと思います。

お母さん、いつも私の相談のってくれてありがとう。私もいつまでもお母さんの味方でいたいです。

小学校高学年の部
優秀賞

家族で大切にしていること

長浜市立湯田小学校

6年 まえだ ちはな
前田 千華柳

私は、生まれつき手足が短く、低身長です。だから、高いところには届きません。物が取れなかったり、スイッチが押せなかったりします。長距離は歩くのがしんどいです。階段の上り下りも大変です。お風呂のシャワーも高いところにあると届かないので、一人で入ると困ることがあります。ただ低身長ということではなく、手足が短いので、服のサイズもぴったり合うものは、なかなか見つかりません。私にはたくさんできないことや、難しいことがあります。

私は、周りからも嫌なことを言われることがあります。とてもつらかったです。

でも、そんな時に一番支えてくれるのは家族です。センサー付きの電気に変えてくれました。服を直してくれました。台を準備してくれました。だっこして車に乗せてくれました。階段をおんぶで上がってくれました。つらかった話をたくさん聞いてくれて、私の味方をしてくれました。お父さん、お母さん、お姉ちゃんたち、みんなで私の支えになってくれます。

そして、去年は足の延長手術をした後、器具をつけていたので、普段の生活でさらに大変なことが増えました。痛くてつらい時もありました。でも、家族が支えてくれました。励ましてくれました。だから、1年間の治療を乗り越えられました。今は、運動会に向けてリハビリをがんばっています。100メートルを走り切りたいと思っています。

ます。

家族がいてくれるので、できなかったことができるようになります。嫌なことも乗り越えられます。

私の家族は、私だけを支えているのではないです。おじいちゃんのお世話や家事など、互いに支えあっています。もちろん私も家族の一員として家族を支えています。それぞれができることを分担したり、たくさん話をしていっしょに笑い合ったりしています。家族で笑い合える時間が増えれば増えるほど、より家族の仲が深まり、みんなが安心して楽しく過ごせる豊かな家庭になると思います。

我が家では、あいさつを大切にしています。朝起きたら「おはよう」と言います。助けてもらったら「ありがとうございます」と言います。ご飯はみんなに「いただきます」と言います。寝る前はみんなに「おやすみなさい」と言います。これも笑顔にしてくれます。ケンカをしても、あいさつをすれば仲直りできます。あいさつで、ほっとすることがあります。なんとなく言っているあいさつだけど、家族を笑顔にしてくれるまほうの言葉です。家族だけでなく、友達とも仲良くなれるまほうの言葉です。

これからも家族みんなで支え合って、笑顔で過ごせたら、素敵な家族でいられると思います。私は私の家族が大好きです。

そして、大人になっても家族に教えてもらったことを大切にしていきたいです。周りの人を幸せにできるようになりたいです。